



干潟のジグソーパズル (印刷用)

■概要

干潟の海や砂(泥)のなかと、そこに続く陸地。それらを構成する要素を描いた大型ジグソーパズルを、参加者全員で考えながら完成させます。その過程で、多様な環境をもつ干潟の自然を楽しく学びます。

■学べること

- 陸から海への移行地帯である干潟の多様な環境要素を知る。
- 干潟の多様な環境に隠れている生きものの存在を知る。
- 自分と干潟の海とのつながりを考えるきっかけとなる。

■準備するもの

- ◆「使用する教材」からダウンロードしたイラスト (32 枚)
 - ◆段ボールなどの台紙…ダウンロードした紙が全部貼れる枚数
 - ◆カッター
 - ◆ラミネートシート (なくても可)
 - ◆干潟のジグソーパズル完成図…「使用する教材」からダウンロード
- *ダウンロードしたイラストを厚紙に印刷して、A4 サイズのまま並べてパズルにしてもよい。

■実施の仕方

1. 参加者全員に巨大なジグソーパズルをつくることを伝えます。
例：「今日はみんなでジグソーパズルをつくります。大きさは2m×3m以上あります。そこには海岸と海のなかの絵が描いてあります。どんなパズルができるかがんばってつくみましょう！」

2. ジグソーパズルのピースを参加者に配るか、バラバラにして床に置きます。

ただし、あらかじめ 1 ピースは抜いて、参加者に分からないように隠しておきます。

3. 制限時間(ピースの数や参加者数に合わせて設定)を告げて作業を開始します。

完成目標時間を決めると参加者同士の気持ちがまとまりやすくなります。参加者自身に決めてもらいましょう。



◎実施場所：海岸(干潟)
◎所要時間：30～40 分



◆ポイント！

実施前に、参加者に気づかれないように 1 ピース抜いておき、最後に隠しておいたピースを出して、生態系もパズルのように何か欠けるとバランスが崩れ、成り立たないことを伝えると効果的です。

◆ポイント！

完成目標時間を決めると参加者同士の気持ちがまとまりやすくなります。





4. あらかじめ隠しておいた 1 ピースを出してパズルを完成させます。

最終段階になり「ピースが 1 個足りない」と参加者が気づいたら、隠しておいたピースを出します。

5. パズルの絵をじっくり見て、それぞれにどのようなつながりがあるのかを考えます。

何が描かれているのか、どんな場所なのか、そこにはどんな生きものがいて何をしているのかなど、描かれている絵を見て参加者全員で話し合います。

例：・浅い海の生きものはどこにいますか？→砂のなかや、草（ヨシなど）の間に隠れている。

・大きな魚がいないのはなぜ？→海が浅いので入って来られない。

・鳥は何をしている？→魚やゴカイなどを狙っている。

・人間は何をしている？→潮干狩り、魚をとっている。

・水はどこから流れてきている→川

6. 干潟の生態系をジグソーパズルに例えて説明し、次の活動につなげます。

例：干潟の生態系はこのジグソーパズルのようにさまざまな要素（パズルのピース）がつながりあって成り立っています。そして、ピースが一つ足りないとパズルが完成しなかったように、このうちの一つでも欠けてしまうと、生態系はバランスを崩して壊れていってしまいます。すべてのものがみんな大切なのです。

* 参考資料：

・ファクトシート「干潟 1 生命のゆりかご」「干潟 2 干潟を彩る多様な生きもの」「海のいきものⅡ」

・指導者用資料「干潟のジグソーパズル」

・干潟のジグソーパズル__記載生物名

◆ポイント！

「近くに同じような海があるか」「潮干狩りなどに行ったことがあるか」など、参加者の体験を聞いていくと、海がイメージしやすくなります。

◆ポイント！

たくさんのパズルのピースを組み合わせる過程や、ピースが一つ足りないとパズルが完成しなかったことを参加者に思い出してもらいながらまとめの話をすると効果的です。

